

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び

II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成

III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築

IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成

V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 古河市立古河第七小学校 】

1 実践テーマ	II
2 実施対象者 (学 年 ・ 人 数)	5学年96名 6学年108名 教職員 20名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (特別の教科 道徳) ② 行事名 (講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	「グローバルマナー」や「おもてなしの心」の大切さについて学ぶことを通して、相手意識、ボランティア精神の醸成を図る。
5 取組内容	1 講演(体育館) (1) 日時 令和2年11月5日 3、4時間目5年生 5、6時間目6年生 (2) 対象 5、6学年児童、教職員 (3) 講師 筑波大学客員教授 江上 いずみ 先生 (4) 講演内容 ア 演題 「グローバルとおもてなしの心 ～古河第七小の子供たちとしてさらに輝くために～」 イ 内容 ○表情・・・表情を作るポイント→目、口角 ○笑顔は1円もかからないおしゃれ 大切なことは「アイコンタクト」目→物→目の受け渡し 「分離礼」「千言後礼」 ○相手への気遣いと言葉かけ ある人への「1番」は、他の人への「1番」とは限らない。 →その人にとって「1番大切なもの」とは何かを考える。 ※相手を傷つけない言葉かけ ○笑顔と笑声、態度、身だしなみ ※明るい印象・・・姿勢をよくする。胸をはる。視線をあげる。



2 事後指導

本校は、昨年度と一昨年度、古河市教育研究会指定で国語の学習に取り組んでいたこともあり、今回の感想も「川柳」にして児童に表現させ、茨城新聞社に投稿した。

12月5日（土）と1月23日（土）のワイドひろば川柳のコーナーに9名の児童が掲載された。

また、5、6年の間で、分離礼が広がり、それが4年生にも浸透し、今では授業の始めと終わりの号令が、「分離礼」で統一されている。



3 オリンピック・パラリンピックコーナーの設置

オリンピック・パラリンピックに関する書籍を学校図書館に整備したのはもちろんであるが、今年度は「おもてなしの心」心の教育に取り組んだ。そのため、「相手へのおもてなし」「心の教育」を扱った書籍も一緒に設置し、いつでも誰でも触れられるように整備した。



6 主な成果	・「おもてなしの心」「相手へのおもてなし」「心の教育」を中心に組んだことにより、児童らが、オリンピックだけではなく、パラリンピックに対しての興味・関心が大きく高まった。 ・特に高学年において、障害のある人も障害のない人も同じ社会で生きている（共生社会）についても考えることができた。 ・挨拶に対しても、相手を意識した挨拶、「分離礼」などが自然にできるようになった。
7 実践において工夫した点（事業の特色）	・講演以外の学校環境にオリンピック・パラリンピックを迎える側としての「おもてなしの心」への興味関心が高まる環境作りを行った。 ・国語や特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、学級活動などに関連させ、教科の横断的な学習を進めた。
8 主な課題等	・コロナ禍であったため、内容の精選及び実際の取組等が制限されてしまい、やりたいことがなかなかできないこともあった。 ・単発的な講演会だけに終わらせないよう、オリパラ教育をいかに学校教育のカリキュラムに位置付けていくかが課題である。 ・他の教科等との関連を意識したカリキュラムの作成と実施が課題である。
9 来年度以降の実施予定	・今年度の講師とは、来年度以降も交流を続けながら、児童が生き生きと活躍し、豊かな心を育成できるよう、オリパラ教育を進めていく。そのためには、教員側の意欲の向上にも努めていく。